冬のガス・石油給湯機の故障にご注意！

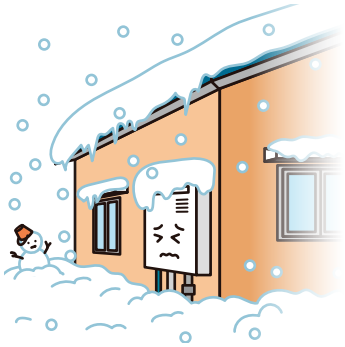
ごぞんじでしたか？
住宅部品 Vol.3
発行/一般財団法人ベターリビング
発行日/2023年12月18日

冬期におけるガス・石油給湯機の故障にご注意！

給湯機は、炊事、手洗い、入浴に加え、暖房の熱源としても使用され、快適な暮らしを実現するうえで欠かすことのできない住宅部品です。

その一方で、冬は気温の低下によって配管が凍結するなど給湯機の故障が生じやすい季節のため、注意が必要です。

冬期における給湯機の凍結予防対策と、凍結した場合の対応等を紹介します。



冬期におけるガス・石油給湯機の故障予防対策等について

1 凍結の予防対策

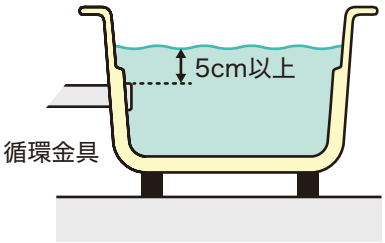
（1）給湯機の電源プラグがコンセントに差し込まれていることを確認しましょう

給湯機には、外気温の低下を感知すると自動的に作動する凍結予防ヒーターと、機器本体と浴槽の間の配管を水で満たし凍結を予防する自動ポンプ運転装置（追焚き機能付きのみ）が備えつけられています。旅行などの不在時に電源プラグを抜くと、自動ポンプ運転装置が作動しなくなりますので、電源プラグを抜かないようにしましょう。

（2）凍結予防のために浴槽へ水はりをしましょう（追焚き機能付き給湯機の場合）

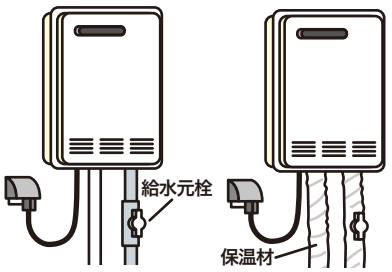
給湯機には、上記で説明した、自動ポンプ運転装置がついており、屋外に配管が露出し、保温が不十分な箇所がある戸建て住宅の場合において、浴槽に水をはって循環させることは有効です。

給湯機のリモコンの電源を切っている場合でも作動しますが、浴槽内の循環金具から水位5cm以上のところまで水（残り湯でも可）を満たしていないと作動しませんので注意が必要です。



（3）給水元栓も保温しましょう

給水元栓とは、給湯機に給水するための元栓（バルブ）です。通常、給水元栓には保温措置がされていますが、万一保温措置がされていない場合や、保温材が劣化している場合には、凍結の恐れがありますので、設備工事業者に保温工事の依頼をしましょう。また、緊急的な措置として、タオルを巻きつけるなどをしたあと、上から防水のためビニールでカバーしましょう。



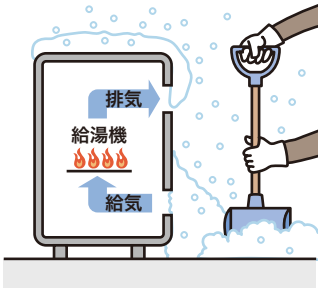
保温されていない例　保温されている例

2 凍結した場合の対応

万一、配管（給水元栓含む）が凍結した場合は、自然に解凍されるまで待ちましょう。早く解凍をさせるために熱湯をかけると、温度差により機器や配管が破損する恐れがありますので、やめましょう。凍結したところが解凍されたあと、給湯機の試運転を行い、水漏れ等がないことを確認して、給湯機をご使用ください。

3 積雪した場合の対応

給湯機の周りに積雪し、給気口や排気口が覆われてしまうと、不完全燃焼や異常着火が起きやすくなります。給湯機の給気口や排気口周辺は必ず除雪しましょう。



4 その他の異常に気づいたときの対応

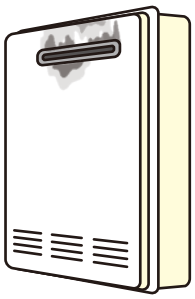
(1)リモコンの異常

給湯機は、故障を検知するとリモコン画面に故障表示(数字)が点滅します。例えば、点火不良の場合は、メーカー共通で【111】が点滅されます。故障表示の点滅が確認された場合は、給湯機の相談窓口又はガス会社相談窓口等にお問合せください。

【メーカー共通の故障表示の例】
111（点火不良）

(2)外観の異常

排気部周辺の煤(すす)の付着や給湯機の破損などは、故障の原因となる場合がありますので、給湯機の相談窓口又はガス会社相談窓口等にお問合せください。



煤(すす)で汚れた給湯機

(3)使用中の異音

使用中に異音がする場合は、まずはリモコンの故障表示を確認しましょう。故障表示の点滅が確認された場合は、給湯機の相談窓口又はガス会社相談窓口等にお問合せください。なお、正常時もファンの音や燃焼音が発生しますので、詳しくは取扱説明書をご確認ください。